和教時報
2024年９月15日（日）発行　第2013号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

和教組ゆるキャラ みぱん

全国教研 2024 IN 大阪
教育のつどいに参加して

伊都支部　きのかわ支援分会　**川島　千尋**

八月一六日～一八日に行われた教育のつどいに参加しました。教育のつどいに参加するのも、レポート発表するのも初めてで、どのような雰囲気なのか全くわからずで、正直不安もあり、とにかく行ってみるしかない心持ちでの参加でした。しかし、三日間を振り返って思うことは「思い切って参加してみてよかった」ということです。

初日の中央公会堂であった全体集会は熱気に満ちていて、歴史ある建物のなかで、全国の教職員の熱い想いを聞くことができ、活気あるエネルギーを沢山受けました。

二日目の分科会『障害児教育』では七グループに分かれ、そのうちの青年期の教育グループで私はレポート『表現するって楽しい！をみんなで一緒に味わって…』の発表をしました。以前に取り組んだ『粘土造形』の授業の発表でした。生徒の作品はもう手元にないので、写真をパワーポイントにたくさん入れて、少しでも見てもらえるといいなという気持ちで発表しました。その中で感じたことは、聞いてくださる方々の空気が温かいということでした。発表しながらだんだん気持ちが落ち着いていくのが分かりました。また、真剣に聞いてくださっているのも伝わってきて、発表後には感想や質問が何人もの方からありました。「こだわりが強く0か100か（気に入らなかったら自分の作品を全部壊してしまう）という生徒のことを思い出して、その子がこの粘土造形の取り組みをしたらどうだったかなと思いました」や、（作品のテーマ「好きなことをする私」は「いつかなりたい私（憧れ）」でもいいよと生徒に伝えていたことに関して）「憧れというのは生徒に伝えるのが難しいと思うがどのような工夫をしましたか」など、様々な視点からの感想や質問をいただいて、私自身、授業を改めて振り返るきっかけになり、次に取り組むときはどんな工夫ができるかなど、考えることにもつながりました。今回のように発表の機会をいただき、感想や質問もいただいて、新たな気づきもあり、「振り返りって大事だな、このような時間がとてもありがたいな」と感じました。

教育のつどいに参加することで新たな気づきや学びが沢山あり、また二学期からもいろいろと感じながら進んでいきたいというエネルギーをたくさんいただいた三日間でした。

レポート報告する川島さん

和歌山からの参加者のみなさん

ピンのスポット 423

「この法律で定める労働条件の基準は最低のもの」と規定された労働基準法には、労働時間を延長した場合には「割増賃金を支払わなければならない」とある。公立校の教員に対し、この基準を無効にしているのが給特法だ。

四％の教職調整額は、仮に残業代に換算すれば月八時間分程度。二〇二二年に県内約二〇〇人にご協力いただいた調査では、持ち帰りも含めた残業時間の平均が一〇七時間に及んでおり、教職調整額を五四％に引き上げてようやく日本の最低基準に達する計算だ。

文科省は概算要求で一三％を示したが、やはり残業代が必要だ。これは私たちの尊厳をかけたたたかいであると同時に、教職員を増やし豊かな教育を保障するための運動でもある。

（K）

わきようそ連続講座

音楽編 & 図工編

本部　教文部長　山崎　浩廉

八月三日に和歌山大学の菅道子先生を招いて音楽編、二二日に豊岡短期大学の神吉脩先生を招いて図工編を開催しました。一〇名程度の参加者でしたが、実技と話し合いで学びを深めることができました。参加者の感想を紹介します。

音楽編

二部合唱について参加者みんなで自身の経験を交えて、話し合いました。子どもたちの様子から実践の方法まで。後半は参加者みんなでベルアンサンブルでした。動画を見ながら自分の担当の音を鳴らしてみんなで曲を演奏し、集団で手軽に音楽を楽しみました。専門的な実践方法からみんなで楽しむ音楽まで楽しい学習のひと時でした。

図工編

自分自身が、図工はすごく好きでたくさん美術展に出してもらっていたのに、中学校の美術になった途端ダメになりました。それは「上手下手」という評価や比較で作品を捉えられるようになったから、美術においては表現するのが怖くなりました。だからこそ、自らが表現したいな、と思えるような活動にしたいと今回の講座で強く感じました。また、子どもの生活を含んでいる、という視点は私自身なかったので、そこを表現に変えていく、そこの橋渡しが教師の役目でもあるのかな、と思いました。その子が何を表現しようとしたのか、丁寧に作品やプロセスを見ていきたいものです。

「そんな風にしているの？学校によって違うね。」

～給食調理員交流会に参加して～

障害児学校部　副部長　芝崎　裕美

障害児学校部では、昨年に引き続き今年度も給食調理員さんの交流会を行いました。八月二六日、今回は南紀はまゆう支援学校を訪問して、調理室の見学と意見交流を行いました。

参加された調理員さんたちは皆さん白衣を身にまとって調理室へ。準備の良さに驚かされました。野菜等の下処理をする所、調理をする所、再調理をする所、休憩室等いろいろ見せてもらいました。調理員さんたちは、調理機器や器具などをどう使っているかの説明を聞き、使い勝手の良いところや悪いところ、より良い調理器具の選び方、各校での調理方法の違い等を話し合っていました。

交流会では、献立に関することや栄養士さんの調理への参加、栄養士さんとの関り、食数、業務内容（分担）、休みの取りやすさ等多岐にわたって情報交換が行われました。

今後調理室の新設が予定されている紀北支援学校の調理員さんは、「機器の配置等でご苦労されている様子を聞いたので、新しい厨房に活かせたら」とおっしゃっていました。また、「このような取り組みを引き続き行ってほしい」「もっとほかの学校の調理員さんとも交流したい」といった声も挙げられていて計画したものとしてはとても嬉しく思いました。会場校の方々、参加者の皆さんありがとうございました。

ボドゲ&ウナギでリラックス

日高支部　切目小分会　橋爪ありさ

有田支部の「ハロー」の取り組みを真似して始めた「リラックスフライデー」。その第一回を「ボドゲ&ウナギの会」として七月二六日（金）に行いました。先輩の先生や未組の先生、他支部の先生、お子様も含めて三〇名が集まりました。

まずは自己紹介レクで名前と好きなものを一つずつ紹介し、三巡しました。みんなの紹介が終わった後は、好きなものと名前を書いた名札を作りました。次はグループ分けレクの「カレーライス作り」。「にんじん」「じゃがいも」などカレーライスの材料が書かれた紙を一枚選び、カレーライスが作れるようにグループに分かれました。そのグループで、持ち寄ったボードゲームで遊びながら、ご飯が炊けるのを待ちました。最初の自己紹介レクの時に名札を作っているので、職場や年齢関係なくあだ名で呼び合い、和気藹々とした雰囲気でした。

最後に、地元で有名な「川常」のウナギやオードブルをみんなでいただきました。職場や年齢関係なく交流しながら、美味しい食事でリラックスすることができました。ウナギを楽しみに参加してくれた方もいて、たくさんの笑顔が見られました。

西牟婁支部 青年部BBQ

西牟婁支部　支部長　松葉　秀伸

夏休み最後の日曜日となる八月二六日のお昼に互助会の地区別事業を活用し、青年部の先生が企画・運営して田辺市秋津川の紀州備長炭公園でBBQを行いました。夏休み中で案内が十分できなかったり、PTA整備作業などの学校行事が入っていたりと、申し込みメ切までに予定人数が集まらず心配しましたが、急きょ役員のツテを活用して参加を呼び掛けた結果、家族で参加してくれる先生も含めて最終的には二〇名が参加しました。

BBQでは肉、海鮮、野菜がたっぷり用意され、食べきれない量でみなさん大満足でした。また、豪華賞品つきのビンゴ大会も行い盛り上がりました。参加者からは「初めて出会う先生もいたけど、楽しく交流ができてよかった」「とてもおいしいBBQでした」「ビンゴがなかなかそろわず悲しかった」などの声が寄せられました。残り少ない夏休みを惜しみながらも二学期に向けての英気を養う事が出来る機会になりました。

案内ビラ作成、買い出し、食材準備と頑張ってくれた青年部の先生方、ご苦労様でした。

友だち募集中

和教組公式LINE

- 交渉結果やイベントなど情報をお届けします
- 個別の相談も可能です（他の人には読まれません）

もう一度行きたい

あんなトコ こんなトコ ええトコ

5

知覧特攻平和会館・三角兵舎

海草地方支部　平和　守郎

パリオリンピックで活躍された卓球の早田ひな選手が、帰国後に行きたい場所について、鹿児島県にある知覧特攻平和会館を挙げ、その理由として、「生きていること、そして、卓球が当たり前にできていることが、当たり前ではないというのを感じたい」とおっしゃっていました。私は早田選手のこの言葉に、大きな感銘を受けました。

私がみなさんに紹介したい場所は、まさにこの知覧特攻平和会館です。そして、その敷地内に復元されている三角兵舎を、ぜひみなさんに訪れてほしいと思っています。

三角兵舎は、特攻隊員の宿舎であり、出撃前夜にはこの三角兵舎でささやかな壮行会が行われ、青年たちが別れの手紙をしたためた場所です。復元されたのもとはいえ、三角兵舎は中も完全に再現されており、当時の特攻に向かう青年たちの様子を想像することができます。出撃前夜の青年たちはきっと怖かったことだろうと思います。きっと死にたくなかったことだろうと思います。それでも、愛する人や国を守るため、命を懸けようと誓ったその想いに敬意を表さずにはいられませんでした。

三角兵舎は、戦争の悲惨さや平和の尊さだけでなく、私たちの平和が、多くの青年たちの犠牲のうえに成り立っているということを思い出させてくれる場所です。亡くなっていった青年たちの想いに報いるためにも、「教え子を再び戦場に送ることがない」平和な世の中の実現のため、一人の教師としてできるだけのことをやっていきたいと思います。みなさんもぜひ、知覧特攻平和会館を訪れてみてください。

和教共済 2024年度

対象期間：2024年9月1日～11月末日
おうちの共済と自動車保険は12月末まで

秋のぷれぜんとキャンペーン

プレゼント対象者は現職者に限ります

医療共済、生命共済、おうちの共済、自動車保険
いずれかに新規加入で
ハリナックス プレゼント！

ネットで簡単お見積り
生命共済 医療共済
親切な給付＆お得な掛金 比べてみてください！

質問に答えて自動で見積り
おうちの共済
台風への備えを万全に！ 南海トラフへの準備にも

まずはお見積り依頼を
自動車保険
教職員に必要な「特別な事故対応」をあなたにも！

LINE→

和歌山県教職員共済会（和教共済）
TEL：073-436-7860

2024年度
第57回教育要求県民集会

日時 10月25日(金) 13:30～ 打合せ
14:00～ 開始

場所 書道資料館（和歌山市西汀丁61）

主催 民主教育をすすめる和歌山県民連合
（略称 教育連合）

1971年から行われている保護者等が教育要求を直接県教育委員会に訴え、高校の学級増設や障害児学校建設、保護者負担軽減などさまざまな成果をあげてきた集会です。